

令和3年度岩手県林業技術センター試験研究評価実施結果

1 目的

(1) 試験研究の効果的・効率的な推進を図るため試験研究評価を実施する。

試験研究課題の選定から試験研究終了後の成果の普及に至るプロセスに関し、適切な評価を実施することにより、効果的・効率的な試験研究の推進を図る。

(2) 評価等の客観性・透明性を確保するため、県の組織に属さない外部有識者等を評価委員とする外部評価を実施する。

2 外部評価委員会の開催日時等

(1) 日時 令和3年9月16日(木) 13:30~16:30

(2) 場所 岩手県林業技術センター 大講義室

3 評価委員

岩手県林業技術センター所長が選任する。

所 属 等	氏 名
岩手県立大学総合政策学部教授	渋谷 晃太郎
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所長	山中 高史
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場長	中村 隆史
奥州地方森林組合代表理事組合長	小原 剛一郎
岩手県木材青壮年協議会会長	坂東 学
岩手建築士会	上田 吹黄

4 研究課題に対する総括評価結果

課 題 名		総括評価 (※)	総括評価に関する主なコメント
カラマツ優良種苗の安定生産に向けた技術体系化	継続	A : 1 B : 5 C : 0 D : 0	・老齢のカラマツ母樹の延命よりも、若いカラマツから早期に種子を取る技術開発を急ぐ必要がある。 ・採種量の安定化がもう少し必要かなと感じた。
天然更新を活用した針葉樹伐採跡地における森林更新技術の開発	継続	A : 1 B : 5 C : 0 D : 0	・今後非常に必要な研究だと思う。 ・天然更新に必要な経費の試算があってもいいかもしれない。
針葉樹大径材の利用拡大を目指した板・挽割りの効率的な生産技術の開発	継続	A : 2 B : 4 C : 0 D : 0	・ウッドショックによって、あらゆる材の活用が求められており、データの提供は重要だと思います。 ・市場動向も配慮した方がよい。
アミガサタケ人工栽培技術の開発	継続	A : 4 B : 2 C : 0 D : 0	・味や食感などの面からの検討も必要では。 ・計画どおりに進んでいるように思える。
効果的なウルシ実生苗の安定生産技術の開発	継続	A : 4 B : 2 C : 0 D : 0	・発芽率の向上が図られたので、今後はウルシが多産できる種を選抜していくことが必要では。 ・種子精選方法の条件については確立できている。

※ 総括評価 【継続課題】 A : 十分な成果が期待、優先的に取り組む必要

B : 一定の成果が期待、継続して取り組む

C : 見通しに問題、計画再考

D : 中止